



人・時めぐり逢い紀行⑩

今回は、観光とサイクリングに力を入れる内子町観光協会の寺園事務局長と、弊社社長の二人で、内子町をサイクリング！町並みのあちこちに、美しさ、楽しさ、美味しさが発見できる町です。

【発行問い合わせ】
株式会社アメイズ 福岡事務所
TEL:092-605-3321 FAX:092-605-3335
〒811-0213 福岡市東区和臼2-3-2
令和5年12月号発行 発行責任者 穴見 賢一（代表取締役社長）

穴見 賢一

Kenichi Anami

1970年生まれ、大分県佐伯市出身。2016年「ホテルAZ」を全国87店舗展開する「株式会社アメイズ」代表取締役社長に就任。柔道初段。趣味はロードバイク、カメラ、ラジコン（車、飛行機）。

人時邂逅



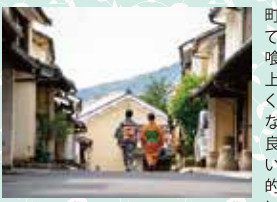
寺園 浩昭

一般社団法人内子町観光協会 事務局長

Hiroaki Terazono

1960年生まれ。鹿児島県出身。長年、全日本空輸株式会社にて勤務。松山支店長として赴任したのを機に、愛媛県観光物産協会理事などの多くの公職を歴任する。NHKあいちテレビを経て、2022年一般社団法人内子町観光協会事務局長に就任。

八日市・護国地区の町並み



町の人々の尽力によって、土壁の表面を白漆喰（しろしゅくい）で仕上げた、漆喰塗籠（しゅくいぬりごめ）の贅沢な造りの建物が非常に良い状態で保存されています。国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定。

内子町を訪れたら、まずめざしたいのが八日市・護国地区（ようちかいち）の町並み。江戸時代から明治時代に木蠟（もくろう）の生産で繁栄した町です。その時代に建築された民家が、今も約600mにわたって軒を連ねています。その民家の多くが、町家の住み店舗併設型の住居だった（町家（まちや）といわれるもの）。重厚な格子や軒下（しつら）えられた床（しよ）ぎという白目地を白漆喰（しゅくい）で固めた海鼠（なま）壁などの伝統的な町なみを鑑賞しながら歩くのも、まるでタイムスリップしたような感覚を感じられます。八日市・護国地区のメインスポットのひとつが、木蠟の商いで大きな財を成した上芳我（かみは）が邸です。現在は木蠟資料館になっており、ガイドさんの話を聞きながら、パワフルにも出品された木蠟の隆盛の歴史をたどることが出来ます。

さらにこの町の魅力は、現在も実際に町に人々が住んでいて、人肌の温かみと生活の息吹が感じられるところにあります。たとえば「古民家カフェでんじろう」。二階建ての「自宅」で階をカフェ店舗として営業されています。また、町を歩いてみると、どこどこに地元で収穫されたカキやユズなどが並んでいて、無人販売があり、おだやかな町並みに溶け込んでいます。古民家カフェのほか、雑貨店や和装屋や「屋敷」などがあり、ふらりと立ち寄るとあつという間に時間が過ぎていきます。

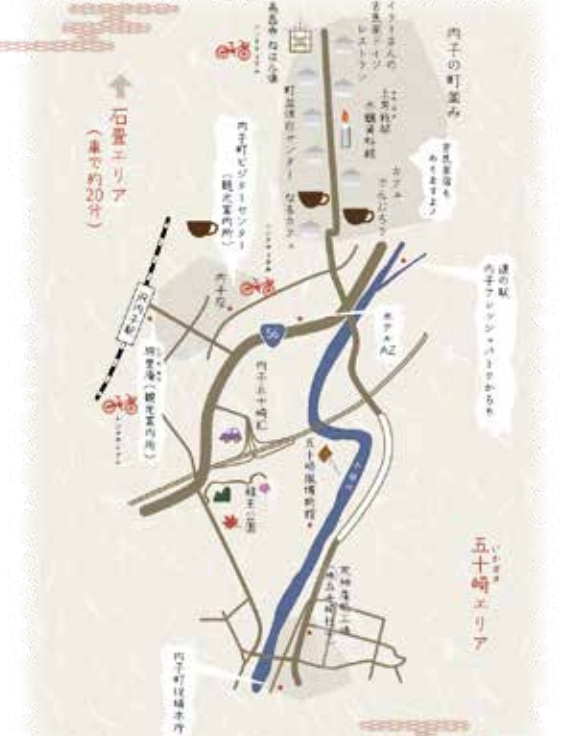


「非日常を感じられるレトロな町並みを歩いてみませんか？」
「内子お散歩旅」
江戸後期から大正にかけて木蠟（もくろう）の生産で栄えた町

弓削（ゆげ）神社



石畳サイクリングコースのゴールになる弓削神社。神社へ渡る橋は屋根付き橋です。近くに「そば処 石畳むら」のほか、シダレサクラの名所や、飲用できる湧き水も湧き出ています。



ハーブやスパイスの魔法がかけられた!? 本格ドイツ家庭料理



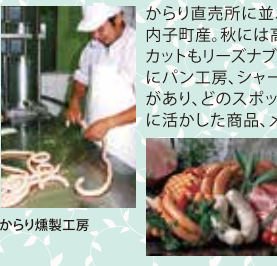
内子産を使ったソーセージのグリル、ドイツ家庭料理の定番・豚カツ「シュニツェル」や内子の乳牛から搾った乳で作ったチーズ、ザワークラウトなどなど本格ドイツ家庭料理を堪能できる古民家レストラン「ツムシュバルツェン カイザー」。ハーブやスパイスは、オーナーご夫婦でドイツに買い出しに行くのだとか。国内ではどこでも飲めないオーナーおすすめのビールやワインにも出会えます！



町歩きの中に、意外なレストランを発見！ドイツ出身のカイザーさんによるドイツ家庭料理のレストランです。

こんなところにドイツ家庭料理のレストラン！

道の駅 内子フレッシュパークからり



からり直売所に並ぶ旬の野菜や果物はすべて内子町産。秋には高級フルーツのシャインマスカットもリースナブルに手に入るのだとか。ほかにパン工房、シャーベット工房、レストランなどがあり、どのスポットも内子産の素材を最大限に活かした商品、メニューになっているのが特長です。本場ドイツ仕込みの手づくりハム・ソーセージが有名な「からり燻製工房」でも、飼料など肥育環境にこだわった内子豚しか使っていません。

古民家カフェのコーヒーやぜんざいで一息



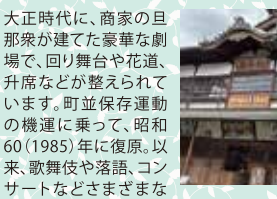
笑顔で迎えてくれた「カフェでんじろう」のオーナー

内子町にはまだまだ見ておくべきところがあります。歌舞伎などが行われる内子座という大正時代の芝居小屋や、地元産物にこだわりの「石畳エリア」へ。

レンタサイクルで少し行動半径を広げると、さらに深まる内子町旅情

ソーセージ料理をはじめとする本場のドイツ料理が味わえます。ドイツ料理に欠かせないジャガイモは、使用するハーブの違いによって何種類もの料理に変わります。様々なハーブで味付けされたお料理をテーブルいっぱいに並べ、ドイツビールやドイツワインで乾杯するのはいかがでしょうか？昔ながらの町並みの中にふと立ち発見があるのも内子町の魅力です。

重要文化財 内子座



大正時代に、商家の旦那衆が建てた豪華な劇場で、回り舞台や花道、升席などが整えられています。町並み保存運動の機運に乗って、昭和60（1985）年に復原。以来、歌舞伎や落語、コンサートなどさまざまなイベントに活用されています。2024年秋に改修工事に入る予定で、しばらく見学できなくなります。

電動アシスト付き自転車も充実 町内3カ所でレンタルできます！

自転車は、JR内子駅横の「旅里庵（たびりあん）」「内子町センター」、「町並み保存地区の終点にある「町並み駐輪場」で借りることができます。普通自転車、ミニベロ（電動アシスト）、クロスバイク、Eクロスバイク、Eマウンテンバイクがあり、体力や用途に合わせて選べます。

レンタル料	普通自転車	ミニベロ	Eクロスバイク
3時間まで	500円	1,000円	2,000円
1日	700円	1,500円	3,000円

この五十崎（いかざき）エリアには、並木道が美しい龍王公園という大きな公園があります。桜の季節にはピンクに染まる桜並木、紅葉の季節には赤く染まる並木道はお散歩やサイクリングに最高のスポットです。さらに内子町の自然を満喫するなら、室町時代に創建されたといわれる弓削（ゆげ）神社や、寄り道スポット満載の「石畳エリア」へ。

色鮮やか！季節ごとに 変化する内子町の自然

レジャーパークからりがあったり、人気観光スポットが半径5kmくらいの範囲にあちこち点在しています。お目当ての場所へは、快適に移動できるレンタサイクルを利用してみるのはいかがでしょうか？自転車を借りたら、ふらりと行ける「五十崎（いかざき）エリア」へ。ここは和紙漉きなどで外国人観光客にも人気のエリアです。大正時代から続く和紙工場「天神和紙工場」は現在も稼働しています。和紙工場では和紙の手漉き体験ができます（要予約）。また五十崎（いかざき）は、丸餅（まど）でも有名で、五十崎丸餅博物館へは丸餅づくり体験が可能です。毎年五月には小田川河川敷でいかざき大風合戦が行われます。イベント当日はどなたでも風揚げを体験（有料）することができます。

土日のみ営業！予約制カフェ「クロンタヒルズ」



クロンタヒルズは黒田（くろんた）という大洲市長浜地区の地名。海を見下ろしながらいただく地元ランチは絶品です。無農薬のハーブティーや入浴用ハーブを購入することもできます！

内子町は海のない町ですが、ひとつ山を越え伊予市・大洲市に入ると、そこには海辺をつなぐサイクリングコースがあります。瀬戸内海を望む絶景を堪能できます。また、コース沿いには「レトロCMや鉄道のポスター」で有名な「レトロCMや（しもな）駅」や「一日限定のカフェ」など寄り道せずには行かないスポットがあります。

内子町を南予サイクリングの拠点へ。ひと山越えれば、海辺の潮風も待っています！

旅の終わりに。

内子町観光協会事務局長の寺園浩昭氏とともに「石畳エリア」を回りまわりました。途中、屋根付き橋として知られる「田丸橋」や、現在も地元の方々が精米に利用される水車小屋があり、内子町の自然を堪能できるコースです。石畳エリアへのサイクリングは上りの坂道があつて、初心者と上級者向けのコースがあります。景色が良いのはもちろんですが、モチベーションを上げてくれるのが、石畳産のそば粉を使った手打ちそばです。こちらは土日に営業していないのですが、石畳エリアへのサイクリングの際は必ずといっていいほど立ち寄ります。ちょっと、脚力や体力に自信のない方には電動アシスト付き自転車のEバイクもあります。みなさんぜひこちらのエリアへのサイクリングにもチャレンジしてみてください！

寺園 今日とはトータルで約90kmのサイクリングになりましたが、いかがでしたか？

穴見 山の匂い、川の色、秋の空気が内子町ならではの風土を感じられて、味わい深いサイクリングになりました。内子町を拠点にすると、他にないパリエーション豊かなサイクリングができるんですね。海辺の隣町に遠征したお陰で、クロンタヒルズでランチもできてお腹も心も大満足です。

寺園 いつもはロードバイクに乗られていて、今回Eバイクでのサイクリングは初めてのことでしたが、走り心地はいいかどうでしたか？

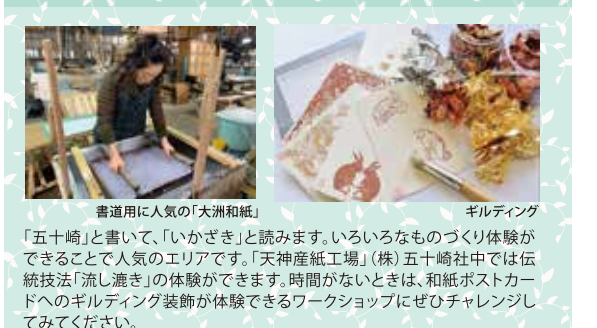
穴見 山のように「なんだ」と思いましたが（笑）。上りの山道が結構ありましたが、全然疲れませんでしたね。

寺園 穴見社長は200kmを走破されるのがすごいです。普通段々自転車に乗らないという方は、Eバイクはおすすめです。ぜひ白帰りはなく、ホテルAZを拠点に、自転車を借りて内子町とサイクリングをじっくり堪能していただきたいのです。

穴見 当ホテルでは自転車でお越しの方は輪行袋に入れておくのもおすすめです。また、お泊りではなくても水や空気入れ、お手洗いや無償で利用していただける「サイクルオアシス」にも取り組んでいます。愛媛内子にもぜひサイクルオアシスの登録店舗にしたいと思っています。旅が好きという方は、たくさんいらしていただけます。ぜひ自転車という移動手段が、プラスになると、出会いや発見の多い忘れられない旅になります。普段段々乗らない方であっても無理なくサイクリングができて、町を観光できるのが内子町の魅力です。南予のサイクリング拠点としての町づくりに当ホテルも貢献していきたいと思っています。

内子町の観光情報や各施設の詳しい情報は、内子町観光協会公式HP「内子さんぽ」をご覧ください。
<https://www.we-love-uchiko.jp/>

五十崎（いかざき）地区は和紙漉き、風づくりなどが体験できるクラフトエリア



「五十崎」と書いて、「いかざき」と読みます。いろいろなものづくり体験ができることで人気のエリアです。「天神和紙工場」(株)五十崎社では伝統技法「流し漉き」の体験ができます。時間がないときは、和紙ポストカードへのキルティング装飾が体験できるワークショップにぜひチャレンジしてみてください。